

①授業から学んだこと

授業をしてみて感じたことは、授業は教員が行うものではなく、教員と生徒で創り上げるものだということだ。生徒の協力なくして、良い授業を作ることは難しく、この3週間何度も生徒に助けられて授業を行うことができた。生徒の発言、行動を一つ一つ拾い上げ、深め、それを全員で共有する。その連続で授業が成り立っており、その質が高ければ高いほどいい授業になるのだと感じた。そして、生徒との意思疎通を円滑に、かつ深く行うためには、生徒との信頼関係がすごく重要だと感じた。その信頼関係は授業だけで築けるものではなく、日頃の学校生活における何気ない会話や振る舞い、挨拶など全ての要素が信頼関係の構築に影響しており、その点でも、「指導力＝人間力」なのだと痛感した。また、様々な角度から考えるための視点を授け、「生徒が考える」授業を行うためには、教員の経験の深さや知識の幅が絶対的に必要だと感じた。同じ学校でも学年やクラスによって雰囲気異なり、同じクラスでも、授業ごとに雰囲気が異なる。その違いに敏感に気付く、その時その時で、適切なアプローチを行う実践する力も教員として必要な能力なのだと感じた。

②生徒との交流の中で学んだこと

生徒との交流の中で学んだことは、生徒一人ひとりとは全く異なるということだ。当たり前といえば当たり前だが、その違いがすごく大きな意味を持ち、その違いがあるからこそ、学校は面白い場所なのだと実感した。そして、それが教員にやりがいをもたらすのだと3週間で感じた。「違いに気付く、生徒一人ひとりに合った関わり方をする」ことは、当たり前のようでとても難しく、一朝一夕で身につく力ではない。様々な力が必要となる。知識の広さや傾聴する力、生徒の立場に立って考える力や全体を俯瞰する力など、様々な力が重なり合って、生徒のニーズに応えられる。この3週間、実習校の生徒全員と話し、コミュニケーションを取ったが、素直にそのコミュニケーションが楽しいと感じる気持ちと、どうしたらもっと深いところで生徒と信頼を築けるのかという課題も感じていた。日が経つにつれて、生徒との距離が縮まっていく嬉しい気持ちもあった一方で、生徒によってはどう接したらいいのかわからず困ってしまう場面もあり難しさも感じた。そのなかで自分自身が生徒から学ばされることや新しく気付かされることも多く、すごく充実した意味のある時間を生徒と過ごせた。

③職員室の様子から学んだこと

職員室の様子から学んだことは、教員同士の情報共有の多さだ。欠席している生徒や早退した生徒、体調不良の生徒のみならず、授業での様子や部活動の様子など、事細かに情報を共有することで学年全体、学校全体で生徒への対応を行っているのだとわかった。自分の実習校では教員同士の信頼度が高いように見えた。教員同士の信頼度が高ければ高いほど、生徒に与える安心感も大きくなるのだと感じ、生徒たちは信頼関係ができている教員のもとで、のびのび学校生活を送っているように見えた。教員と生徒の関係を作ることが教員に求められるのではなく、教員間でも信頼関係を築き、チーム学校で教育を推進していくことが大切なのだと学べた。

④事前に立てた目標及び課題について

私はこの実習に臨むにあたって、「生徒と先生に積極的に関わり、現在の教育現場について理解を深めるなかで、自分自身のスキルアップにつなげる」という目標を立てていた。3週間という限られた時間のなかで、積極的に行動を起こし、沢山の学びを得たいと思っていた。いざ実習が始まってみると、あっという間に時間は過ぎていき、思っているよりもできることは限られていると途中で気付いた。だからこそ、生徒一人ひとりとのコミュニケーションをもっと大切にし、どうやったら生徒との関係を深められるのかを常に模索しながら実習に取り組んだ。空き時間は授業見学に行ったり、生徒と話したり、常に動き回り、常に新しい知識を吸収することを大切にした。そのように常に動き回った3週間の実習は自分のなかでもやり切ったと思える非常に充実した時間になった。先生方の振る舞い一つとっても、意図や意味が詰まっており、生徒の反応一つとっても、先生の振る舞いが確実に反映されており、どの瞬間も勉強になる貴重な時間となった。実習前に立てた目標の通り、積極性のなかにも分析的な視点を持ち、自分自身と照らし合わせながら自分を見つめることができ、目標は達成されたように思う。

⑤教育実習全般にわたって

3週間の教育実習を終えて、特に感じているのは担当してくださった先生への感謝だ。3週間という限られた時間の中でも、自分にたくさんのことを任せてくれ、そのおかげで様々な経験ができた。2日目から体育の授業を任され、3日目には道德の授業も行い、序盤から大変だなと感じる場面もあったが、困ったことがあれば一緒に考えてくださり、必要に応じてアドバイスもいただいた。前向きな姿勢で多くのことを任せてくださったおかげで、自分自身のびのびとしながらも、自分の考えを実行に移すことができたと感じている。実習期間のみならず、それに至る準備やその後の作業など、自分にかけていただいた労力は計り知れないが、自分にとってかけがえのない経験をさせていただいて本当に感謝している。教員になるつもりがない中で臨んだ実習であったが、素晴らしい先生方に助け

られて教育現場に携わることができ、教員という仕事のおもしろさややりがいをもつて感じる事ができた。将来的に先生をやってみたいと強く思えた。

⑥その他なんでも

〈感じた変化〉

自分が中学生だった当時とまるで違うところがたくさんあった。

- ・部活動の縮小化、それに伴う部活動への熱意の低下。
- ・Chromebook というパソコンが生徒に一台与えられる。授業や学活で使うのが当たり前。
- ・校舎が新校舎になった。
- ・体操服の変更 etc…

年月が経つにつれ、変化するのは当たり前だが、その変化に少し寂しさを感じることもあった。

〈得したこと〉

- ・自分が中学生だった頃に、野球部で北信越大会に出場したことを記念して作られたパネルが校内に飾ってあり、それが会話の種になった。
- ・野球ができることで、部活動でも生徒と充実した時間を過ごせた。
- ・自分の海外経験が子どもたちの関心を惹いた。

〈嬉しかったこと〉

- ・色紙にメッセージを書いてプレゼントしてくれたこと
- ・個人でも手紙をくれたこと
- ・生徒に、授業が楽しくてわかりやすいと言ってもらえたこと
- ・生徒たちが、秋に関西方面に修学旅行に来る際に会う約束をしたこと
- ・先生方から授業が上手いと言ってもらえたこと
- ・自分の声掛けと指導で、できないをできるにする体験を生徒にさせてあげられたこと